

平成19年10月25日

各位

会社名 株式会社 新生銀行  
 代表者名 代表執行役社長 ティエリー ポルテ  
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成20年3月期(第8期)中間業績見通しと通期業績予想および  
 普通株式配当予想の修正に関するお知らせ

当行は、本年10月1日に公表いたしました中間期有価証券評価損の計上等を踏まえ、本年5月9日の決算発表時に公表した平成20年3月期(第8期)の中間業績見通しおよび通期業績予想を下記のとおり修正いたします。あわせて、普通株式に係る中間配当予想を下記のとおり修正いたします。

## 記

## 1. 当中間期の業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:億円)

【単体】	実質業務純益*	中間純利益
前回発表予想 (A)	320	340
今回見通し (B)	340	60
増減額 (B-A)	20	△280
増減率 (%)	6.3	△82.4
(ご参考)前中間期実績(平成19年3月期)	276	415

\*経営健全化計画ベース

(単位:億円)

【連結】	経常利益	中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想 (A)	330	380	27円24銭
今回見通し (B)	310	310	21円13銭
増減額 (B-A)	△20	△70	△6円11銭
増減率 (%)	△6.1	△18.4	△22.4
(ご参考)前中間期実績(平成19年3月期)	459	388	27円19銭

## 2. 当期の業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:億円)

【単体】	実質業務純益*	当期純利益
前回発表予想 (A)	660	700
今回修正予想 (B)	700	430
増減額 (B-A)	40	△270
増減率 (%)	6.1	△38.6
(ご参考)前期実績(平成19年3月期)	549	△419

\*経営健全化計画ベース

(単位:億円)

【連結】	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	740	720	51円57銭
今回修正予想 (B)	670	620	40円40銭
増減額 (B-A)	△70	△100	△11円17銭
増減率 (%)	△9.5	△13.9	△21.7
(ご参考)前期実績(平成19年3月期)	231	△609	△45円92銭

### 3. 中間配当予想の修正の内容

	普通株式1株当たり配当金
基準日	中間期末
前回予想配当 (平成19年8月10日発表)	1円66銭
今回修正予想配当	0円00銭
前中間期(平成19年3月期)実績	1円66銭

### 4. 業績予想修正および配当予想修正の理由

単体につきましては、本年10月1日に公表しましたとおり、子会社である株式会社アプラス、当行が36.4%を保有する持分法適用関連会社であるシンキ株式会社(以下「シンキ」)の普通株式の時価下落などに伴う減損処理による有価証券評価損等約270億円の計上ならびに、米国住宅ローン市場におけるエクスポージャーの評価減と保守的な引当金の計上などにより、業績予想を修正するものです。

連結につきましては、シンキが平成19年9月13日に公表いたしました、貸倒引当金ならびに利息返還損失引当金の大幅積み増しならびに、米国住宅ローン市場におけるエクスポージャーへの評価減と保守的な引当金の計上などにより、予想値を修正するものです。なお、シンキの当中間期損失見込額の当行持分としては、当中間期に約70億円の持分法投資損失を計上いたします。

以上の状況を踏まえ、普通株式に対する中間配当は見送ることにつき、本年11月14日開催の取締役会に付議する予定であります。なお、第2回甲種優先株式に対する優先中間配当につきましては当初予定通り所定の金額を支払う予定であります。

当行社長のポルテは以下のとおり述べています。「消費者金融業界における不透明感が今後払拭されていくにつれ、これまで当行が直面してきた問題の一部は、今後、業務の発展につながる機会になっていくものと確信しています。引き続き、健全な資産と強固な資本基盤により財務の安定性を確保しつつ、将来の成長に向け、各業務分野の強化に取り組んでまいります。」